

国文学専攻創立五十周年  
国文学会設立四十周年  
記念号刊行によせて

加 美 宏

同志社大学文学部文化学科国文学専攻が創設されたのは、一九五四年（昭和二十九年）四月のことであった。初年度は第二部（夜間）に設置されたが、翌年から第一部設置の専攻となった。この国文学専攻創設に尽力されたのは、すでに故人となられた南波・里井・小森・安永・波多野の各教授であり、二年目からは土橋教授も迎えて、錚錚たる教授陣を形成したのであった。

その年から数えて、ちょうど五十年、今年は記念すべき半世紀目の年にあたっている。この国文学専攻創立五十周年と、同志社大学国文学会が、一九六五年（昭和四十年）に設立されて、来年で四十周年を迎えることもあわせて、いくつかの記念事業が企画されているが、この「同志社国文学」の記念号刊行も、その一つである。

国文学専攻は、いま大きな転機に立っていて、文学部の改組転換により、来年度から文学部国文学科に生まれかわることになっている。一部の大学では、国文科の名が消えつつあるような状況の中で、われわれは、国語・国文の教育・研究を一層発展させようとしているわけである。

わずか二十三名の第一期卒業生からスタートした国文学専攻の卒業生も、半世紀を経て五千名に近づき、多くの有為な人材を世に送り出してきたが、この記念号は、そのうちの研究・教育に携わる者が近年の研究成果

を寄せて、国文学専攻五十年の実りを祝賀しつつ世に問うものである。

十年前の専攻創立四十周年記念号では、二十九名の寄稿があつたが、今号は四十名を超える卒業生・教員の参加を得ることができた。

同志社国文学会内外の方々の、御批判と御鞭撻をいただいて、次の半世紀に向つて歩み出す糧とすることができればと願うものである。